

早稲田大学 人間科学部
2023 年度 入試問題の訂正内容

<人間科学部 一般選抜>

【世界史】

●問題冊子 7～8 ページ：

Ⅲ 設問 Y 問③

Ⅲ 設問 Y 問④

Ⅳ 設問 Y 問①

採点について

選択肢の記述に不適切な部分があったため、適切な解答に至らないおそれがあると判断しました。当該箇所の設定問につきましては、解答の有無・内容にかかわらず、受験生全員に得点を与えることといたします。

以上



〈R05173419〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I 次の文章を読み、設問X・Yの答えをマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

現在のインドをはじめとする南アジアでは、古代からさまざまな民族が進入を繰り返し、多様な民族・言語・宗教が共存する独自の文化的世界を形成してきた。

インド＝ヨーロッパ系のアーリア人が先住民と交わり、ヴァルナ制やバラモン教を生み出したいわゆるヴェーダ時代の後、紀元前6世紀頃からガンジス川中・下流域に都市国家が形成される。これらの都市国家で勢力を伸ばしたクシャトリアやヴァイシヤなどの身分を中心に、① 仏教やジャイナ教など新たな宗教が生まれた。

紀元前4世紀には、アレクサンドロス大王の進出による政治的混乱を経て、インド最初の統一王朝であるマウリヤ朝が **A** を首都として ② 成立する。マウリヤ朝の衰退の後、ギリシア系やイラン系の諸民族の進入を経て、紀元後1世紀にはクシャーナ朝が成立する。③ クシャーナ朝では、紀元前後に生まれたいわゆる大乘仏教が保護され、日本を含む各地に伝わった。4世紀には ④ グプタ朝が成立するが、バラモン教に民間信仰が吸収されて生まれたヒンドゥー教が広まるのもこの時期である。グプタ朝は **B** の進出などを原因として衰退し、7世紀前半には **C** が北インドを支配することになった。

その後、10世紀末には中央アジアのイスラーム勢力がインドに進出し始める。ガズナ朝やゴール朝の進出の後、13世紀にはインドで最初のイスラーム政権とされる奴隷王朝が創始され、⑤ それ以後のイスラーム系の5王朝（デリー＝スルタン朝）の下でインド＝イスラーム文化が開花した。

その後、デリー＝スルタン朝の最後の王朝を倒したパーブルによってムガル帝国の基礎が築かれるが、同帝国は、⑥ イギリスをはじめとするヨーロッパ列強による植民地支配の進展により、19世紀半ばに滅亡する。⑦ 一連の民族運動の後、インドが植民地支配から独立するのは第二次世界大戦後のことである。

設問X 文中の空欄 **A** ～ **C** に入る最も適切な語を、a～dの中から一つ選びなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----------|---|--------|---|---------|---|--------|
| A | a | サールナート | b | サーンチー | c | パータリプトラ | d | カナウジ |
| B | a | エフタル | b | タングート | c | ウイグル | d | ソグド人 |
| C | a | サータヴァーハナ朝 | b | トゥグルク朝 | c | チョーラ朝 | d | ヴァルダナ朝 |

設問Y 文中の下線部①～⑧に関する次の問いについて、最も適切な解答をa～dの中から一つ選びなさい。

- ① インドで生まれた宗教について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a ジャイナ教は、クシャトリア出身のヴァルダマーナ（マハーヴィーラ、ジナ）が創始し、祭式中心のバラモン教を批判して断食などの苦行や徹底的な不殺生を説いた。
 - b ウパニシャッド哲学は、バラモン教の改革運動として生まれ、宇宙の根本原理である梵と人間存在の個別性を意味する我が同一であることを悟ることで、輪廻からの解脱が得られると説いた。
 - c 初期のバクティ運動は、ジャイナ教と仏教を攻撃し、シヴァ神やヴィシュヌ神への絶対的帰依を説いた。
 - d シク教は、カビールが創始し、イスラームの影響下でカーストを否定し偶像崇拜や苦行を禁じるなど、ヒンドゥー教の改革を訴えた。
- ② 以下の地名のうち、アレクサンドロス大王の遠征範囲に含まれないものはどれか。
- a ペルセポリス
 - b タレントゥム（タラント）
 - c サマルカンド（マラカンダ）
 - d ティルス（テュロス）
- ③ クシャーナ朝の時代以降の仏教文化について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a インドのアジャンター石窟寺院の壁画に見られるグプタ様式は、法隆寺金堂の壁画にも影響を与えたとされる。
 - b ジャワ島の仏教遺跡であるボロブドゥールは、シャイレンドラ（シャイレンドラ）朝期に建立された。
 - c 雲崗の石窟は北魏時代に造営が開始され、その仏像にはガンダーラ様式とグプタ様式の影響が見られる。
 - d カンボジアのアンコール＝ワットは、スールヤヴァルマン2世によって仏教寺院として建立され、後にヒンドゥー教寺院に変えられた。

- ④ グプタ朝について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a 王国の直轄領以外の地域では、地方の権力者に統治権を認める分権的な統治体制が行われた。
 - b サンスクリット語が公用語とされ、戯曲『シャクンタラー』などのサンスクリット文学が生まれた。
 - c 東晋の法顕は、チャンドラグプタ 2 世の代にグプタ朝を訪れ、さらにスリランカを訪れた後に帰国した。
 - d この時期、西北インドのインダス川流域にナーランダー僧院が建てられた。
- ⑤ デリー＝スルタン朝の時代に起こった出来事について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a ポルトガルがマドラス（現チェンナイ）を占領し、貿易拠点とした。
 - b ハルジー朝が地租の金納化などの経済改革を行った。
 - c ティムールがインドに侵攻し、デリーで略奪を行った。
 - d ヴァスコ＝ダ＝ガマがカリカットに来航した。
- ⑥ イギリス東インド会社によるインドの植民地支配について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a ヨーロッパにおけるスペイン継承戦争中に起こったプラッシーの戦いで、イギリス東インド会社がフランス側勢力に勝利した。
 - b イギリス東インド会社は、ムガル皇帝から、ベンガル・ビハール両地域に対し、徴税権や司法権を含むディーワーニーを獲得した。
 - c イギリス東インド会社は、マイソール戦争によってインド南部、シク戦争によってパンジャブ地方の支配権をそれぞれ獲得した。
 - d イギリス東インド会社は、在地領主層に土地所有権を与えて徴税を行わせるザミンダリー制を行った。
- ⑦ インドにおける民族運動に関わる以下の出来事 A～D が、正しく年代順に並んでいるものはどれか。
- A 国民会議派内の急進派が完全独立（プールナ＝スワラージ）を決議した。
 - B 全インド＝ムスリム連盟が結成された。
 - C ガンディーが「塩の行進」を組織した。
 - D 反英運動の弾圧を目的とするローラット法が制定された。
- a B→D→A→C b D→C→A→B c C→A→B→D d A→D→B→C
- ⑧ インドを含む南アジアの第二次世界大戦後の歴史について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a 東パキスタンの独立を支援するインドとパキスタンの戦争の結果、東パキスタンはバングラデシュとして独立した。
 - b スリランカでは、少数派で仏教徒中心のシンハラ人が、多数派でヒンドゥー教徒中心のタミル人に対する優遇政策に反発して内戦を起こした。
 - c インドの初代首相ネルーは非同盟・中立外交を進め、周恩来とともに平和五原則を発表した。
 - d インドは、アメリカ、ソ連、中国などに続いて核実験（原爆実験）を行った。

II

次の文章を読み、設問X・Yの答えをマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

紀元前6世紀ころから、アルプス以北のヨーロッパでは、東方から移動してきたインド＝ヨーロッパ語族の **A** 人が広く居住していた。この地は、紀元前1世紀にカエサルによって征服されて以降、植民地（属州）ガリアとなったが、しだいにバルト海沿岸を居住地とするゲルマン人が進出していった。ゲルマン人は紀元前後ころには、ライン川から黒海沿岸までの領域に拡がり、^①ローマと接触するようになった。さらに4世紀後半、アジア系遊牧民フン人が黒海北岸にまで押し寄せると、この地にいたゲルマン人の一派である東・西ゴート人が、ローマ帝国領域内に大挙して移動した。これを契機に、以後2世紀間におよぶゲルマン人の第1次大移動が始まった。その後、8世紀後半から、スカンディナヴィア半島やユトランド半島に住む、ノルマン人（北方の民）と呼ばれたゲルマン人の一派が、ヨーロッパ各地に海上遠征の植民活動を展開し、略奪・征服を行なった。これを第2次大移動と呼ぶ。ヴァイキングと恐れられた彼らは、河川をさかのぼって内陸部をも侵略したが、10世紀初めにロロに率いられた一派は、北フランスに侵入してノルマンディー公国を建てた。一方、これを防衛したフランスのパリ伯ウードの家系が、10世紀末に **B** 朝を創始した。また、ノルマンディー公国から分かれた一派は、12世紀前半に政情不安な南イタリアに進出し、^④両シチリア王国を建国した。

他方、ゲルマン人の一派アングロ＝サクソン人が支配していた大ブリテン島でも、8世紀末からノルマン人の侵入に悩まされた。ノルマン人は **C** によって一時撃退されたが、この地域はノルマン人の一派デーン人（デンマーク地方のノルマン人）により征服され、デーン朝が成立した。その後、アングロ＝サクソンの王家が復活したものの、^⑤1066年、ノルマンディー公ウィリアムが王位を要求して、大ブリテン島に攻め込んでノルマン朝を建国し（ノルマン＝コンキェスト）、ウィリアム1世として即位した。また、6世紀ころから、大移動前のゲルマン人が住んでいたビザンツ帝国北側の地域では、カルパティア山脈の北方を居住地とするスラヴ人が進出していったが、スウェーデン系ノルマン人の一派（ルーシ、ルス）は、9世紀にこの地域に進出して、まずノヴゴロド公国を建設した。ついで、ドニエプル川を南下してキエフ公国を建国したが、ノルマン人は数が少ないため、しだいにスラヴ人に同化していった。10世紀末のキエフ大公 **D** はギリシア正教に改宗してこれを国教とし、ビザンツ風の専制君主制を導入した。以後、この地にキリスト教が布教され、西ヨーロッパとは異なるビザンツ文化圏として発展していった。しかし、13世紀にモンゴル軍が侵入し、^⑦南ロシアにキプチャク＝ハン国（ジュチ＝ウルス）が建設されると、このモンゴル支配が約240年続いた。15世紀になるとモスクワ大公国が急速に勢力を拡大し、ようやくモンゴル支配から脱していった。

設問X 文中の空欄 **A** ～ **D** に入る最も適切な語を、a～dの中から一つ選びなさい。

- | | | | | |
|---|------------|--------------|-----------|----------|
| A | a ドーリア | b ケルト | c イオニア | d ラテン |
| B | a ヴァロワ | b カロリング | c シュタウフェン | d カペー |
| C | a アルフレッド大王 | b クヌート（カヌート） | c リューリク | d テオドリック |
| D | a イヴァン3世 | b イヴァン4世 | | |
| | c ウラディミル1世 | d ウラディミル2世 | | |

設問Y 文中の下線部①～⑦に関する次の問いについて、最も適切な解答をa～dの中から一つ選びなさい。

- ① カエサルに関連して述べた次の文の中で、誤りを含むものはどれか。
- カエサルは、ポンペイウス、クラッススと共に、前60年、第1回三頭政治を始めた。
 - キケロは、『国家論』を著わしてローマの歴史を考察し、カエサルの独裁に反対した。
 - カエサルの暗殺後、オクタウィアヌスは、アントニウス、レピドゥスと共に、前43年、第2回三頭政治を始めた。
 - タキトゥスの『ゲルマニア』と、その後のカエサルの『ガリア戦記』は、移動前のゲルマン人社会に関する重要な記述史料である。

- ② ローマに関連して、ローマ皇帝が古いものから時代順に並んでいる組み合わせはどれか。正しいものを選びなさい。
- a トラヤヌス帝→ハドリアヌス帝→ユリアヌス帝→テオドシウス帝
 - b ハドリアヌス帝→ユリアヌス帝→トラヤヌス帝→テオドシウス帝
 - c トラヤヌス帝→ハドリアヌス帝→テオドシウス帝→ユリアヌス帝
 - d ユリアヌス帝→トラヤヌス帝→テオドシウス帝→ハドリアヌス帝
- ③ ゲルマン人の第1次大移動に関連して述べた次の文の中で、誤りを含むものはどれか。
- a 西ゴート人は、イベリア半島に進出しコルドバを都として西ゴート王国を建設したが、ウマイヤ軍に滅ぼされた。
 - b 東ゴート人は、イタリア半島に移動してオドアケルを倒したが、ビザンツ帝国のユスティニアヌス帝により滅ぼされた。
 - c ヴァンダル人は、北アフリカのカルタゴの地にヴァンダル王国を建設したが、ビザンツ帝国のユスティニアヌス帝により滅ぼされた。
 - d ランゴバルド人は、北イタリアにランゴバルド王国を建設したが、カール大帝に征服された。
- ④ 両シチリア王国は、12世紀からイタリア南部とシチリア島を支配した王国であるが、その後、分離・再統一を繰り返した。このシチリア島に1860年、軍を率いて上陸し、61年のイタリア統一の礎を築いた人物は誰か。
- a マッツイーニ b カヴール c ガリバルディ d ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世
- ⑤ ノルマン朝に関連して述べた次の文の中で誤りを含むものはどれか。
- a ノルマンディー公ウィリアムは、ヘースティングズの戦いで、イングランド軍を撃破した。
 - b ノルマン朝は、フランスの統治方法を導入し、封建王政を確立した。
 - c ノルマン朝第2代のエドワード1世は、模範議会を招集した。
 - d ノルマン朝の後、フランスのアンジュー伯アンリが国王ヘンリ2世として、プランタジネット朝を創始した。
- ⑥ ビザンツ帝国に関連して述べた次の文の中で正しいものはどれか。
- a ビザンツ皇帝レオン3世は、726年、聖像禁止令を発布した。
 - b ビザンツ皇帝ユスティニアヌスは、『ローマ法大全』の編纂や、サン＝ピエトロ大聖堂の建立などの事業に精力を注いだ。
 - c 13世紀前半に、第4回十字軍がビザンツ帝国の首都アドリアノーブルを侵略し、ラテン帝国を建設した。
 - d ビザンツ帝国は、1453年、オスマン帝国のスレイマン1世によって滅ぼされた。
- ⑦ キプチャク＝ハン国を建設したのは誰か。
- a ウルグ＝ベク b パスパ c ハイドゥ d バトゥ

Ⅲ 次の文章を読み、設問X・Yの答えをマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

① 秦王の政は戦国時代末期、東方の6国を次々と征服し、紀元前221年には最後の **A** を滅ぼして中国を統一したが、統一を成し遂げた政は「王」に代わる称号を求めた。そこで案出されたのが「皇帝」であり、政は死後、始皇帝と呼ばれることになる。始皇帝死後、秦はまもなく滅亡し、皇帝も2代しか続かなかったが、秦末の動乱のなかから台頭して政権を握った **B** が、皇帝を称して漢王朝を樹立した。それ以後、漢は前漢・後漢あわせて約400年続き、その間に皇帝の称号は中国の支配者の称号として定着した。② 第7代武帝は、はじめて「建元」という年号を制定したが、以後、年号は皇帝支配の象徴として使用され続け、また後には中国周辺勢力でも制定されるようになった。

③ 紀元後2世紀半ばにモンゴル高原を支配した鮮卑の支配者は、やがて「可汗」という称号を用いるようになり、これがその後モンゴル高原を支配した柔然、突厥、ウイグル等でも継承された。1206年にモンゴル帝国を建設したチンギス・ハンの「ハン」はこれが発音上変化したものであるが、モンゴル帝国の④ 支配の拡大により、ハンの称号はユーラシア大陸全域に拡がり、モンゴル帝国の諸ハン国（ウルス）やその後継政権、およびその周辺勢力等で用いられた。

モンゴル帝国では第2代オゴタイ以後、モンゴル全体の君主を「ハーン」と呼ぶことになったが、⑤ 第5代のフビライは1260年、モンゴル帝国のハーンに即位するとともに、年号「中統」を建て、1271年には国号を「元」とした。遊牧民の称号と中華帝国のシステムが結合したのである。

⑥ 元滅亡後、明を建国した **C** は、皇帝を称するとともに皇帝一代は同一の年号を使用するという一世一元制を始めた。そのため、彼以降の皇帝は、一般に年号で呼ばれるようになる。すなわち洪武帝の洪武は彼が制定した年号である。明の末期の1616年、**D** のヌルハチは「ハン」を称して後金を建国した。彼を継いだ **E** は、モンゴル帝国第41代ハーンとされるチャハルのエジェイ＝ハーンから元の玉璽を受け継ぎ、1636年、皇帝に即位して国号を「清」に改めた。以後の清の皇帝は「ハーン」と「皇帝」を併称することになる。

⑦ 1912年、清の第12代宣統帝溥儀が退位した。これにより、始皇帝以来の中国の皇帝制度は消滅し、それと一体化していた年号も制定されなくなった。なお日本の傀儡国家「満洲国」では皇帝が称され、年号も制定されたが、1945年の滅亡により、それらも消滅した。一方モンゴルのハーンの称号も、1924年にボグド＝ハーンが死去してモンゴル人民共和国が成立すると消滅した。すなわち紀元前3世紀以来使用されてきた「皇帝」、紀元後2、3世紀に起源をもつ「ハーン」の称号は、20世紀前半には消滅するのである。

設問X 文中の空欄 **A** ～ **E** に入る最も適切な語を、a～dの中から一つ選びなさい。

- | | | | | |
|---|---------|-------|--------|--------|
| A | a 周 | b 齊 | c 宋 | d 遼 |
| B | a 劉秀 | b 劉淵 | c 劉備 | d 劉邦 |
| C | a 朱全忠 | b 朱元璋 | c 朱熹 | d 朱子 |
| D | a 契丹 | b 高車 | c 女真 | d 大理 |
| E | a ホンタイジ | b シナン | c テムジン | d ガルダン |

設問Y 文中の下線部①～⑦に関する次の問いについて、最も適切な解答をa～dの中から一つ選びなさい。

- ① 戦国の諸国の抗争の中で秦が勝利した要因につながったと考えられる、秦と諸子百家との関係についての説明として、正しいものはどれか。
- a 法家の政治家商鞅の実施した変法政策により、秦の富国強兵の基礎が築かれた。
 - b 鄒衍の唱えた陰陽五行説に従って、王朝交替の基盤を整備したことが、秦の勝利につながった。
 - c 孟子の説いた王道政治を実行したことが戦国諸侯の秦に対する信頼を大きくした。
 - d 蘇秦の唱えた合従策に基づいて他の諸国との連携を強化したことが、秦の勢力拡大に大きく貢献した。

- ② 年号が登場したことにより、中国では事件の名称に年号がつけられることが起こる。つぎの事件のうち、年号が名称につけられているものはどれか。
- 司馬炎（武帝）死後、皇帝一族の諸王が帝位を争ったが、諸王が周辺諸族の軍事力を利用したため、彼らの中国流入を招いた。
 - 宋が金と連携して遼を滅ぼした後、宋の違約を理由に金軍が南下し、開封を陥落させ、徽宗・欽宗などを金に連行した。
 - 山東の塩密売商人が、没落農民などを結集して挙兵し、都の長安を占領して大斉国皇帝を称した。
 - 政治の混乱をきっかけに、太平道の教主張角が貧窮農民を集めて反乱を起こした。
- ③ 可汗が称されるより以前にモンゴル高原の遊牧民が用いた君主の称号に「单于」がある。これに関連する文章として、誤りを含むものはどれか。
- 「单于」は、始皇帝が中国を統一したころ、遊牧民匈奴が初めて称したとされている。
 - 冒頓单于是月氏や烏孫、東胡を破ってモンゴル高原を統一して遊牧帝国を建設した。
 - 紀元前1世紀ころ、朝鮮半島北部から中国東北地方にかけての地域を支配した高句麗は、建国当初、「单于」の称号を使用した。
 - 7世紀中期、唐は征服地に「单于都護府」などの都護府を置いて羈縻政策を行なった。
- ④ モンゴル帝国に関する説明として、誤りを含むものはどれか。
- チンギス=ハンは、服属した遊牧民を千戸制という軍事・行政組織に再編制した。
 - チンギス=ハンはナイマン、ホラズム=シャー朝、西夏などを滅ぼした。
 - オゴタイ=ハーンは北宋を滅ぼして華北を領有し、中央行政機構を創設するなど、帝国の基礎を整えた。
 - フラグはモンケ=ハーンの命で西アジアに遠征し、バグダードを占領してアッバース朝を滅ぼした。
- ⑤ フビライ=ハーンが実施した施策でないものはどれか。
- モンゴル高原のオルホン川東岸のカラコルムに首都を建造した。
 - 南宋の都の臨安を占領し、南宋を滅亡させた。
 - 日本に対して2度にわたって遠征軍を送った。
 - 江南との交通輸送のため、隋代に開削された大運河を補修し、新運河も開いた。
- ⑥ 明の社会の動向に関する次の（1）～（4）の事項が古いものから年代順に並んでいるものはどれか。
- 徐光啓によって編纂が始められた『崇禎曆書』が完成した。
 - 正統帝が、遠征した土木堡でオイラト軍に包囲され捕虜となった。
 - 永楽帝がイスラーム教徒の宦官鄭和に南海遠征を命じた。
 - 王守仁が貴州省で「心即理」をさとり、陽明学を確立した。
- （1）→（2）→（3）→（4）
 - （2）→（3）→（4）→（1）
 - （3）→（4）→（1）→（2）
 - （3）→（2）→（4）→（1）
- ⑦ 溥儀に関する説明として誤りを含むものはどれか。
- 光緒帝死後、皇帝に即位したが、結果的に清朝最後の皇帝となった。
 - 皇帝に即位すると、立憲君主制の樹立を目指す戊戌の変法を断行した。
 - 袁世凱は、宣統帝の退位と共和政の維持を条件に、孫文から臨時大總統の地位を譲り受けた。
 - 満洲国が建国されると執政となり、さらにその後、皇帝となった。

IV 次の文章を読み、設問X・Yの答えをマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

19世紀末から20世紀にかけては、西洋近代において培われてきた思想や文化、技術の問い直しや刷新が行われた時代であるといっただろう。

A は「神は死んだ」として、超越的・形而上学的価値を基礎づけるキリスト教や西洋近代の哲学を否定した。フロイトは無意識の領野を発見して精神分析学を確立し、西洋近代の思想が形成してきた、自立した自由な近代的自己という概念を覆した。また技術の発展に伴い、大規模な都市化や工業化が進む中で、自立した個人に代わって「大衆」が出現した。その結果、1920年代頃にはラジオや映画、自動車が普及し始め、知識人の保持していた高級文化に代わって、アメリカ合衆国を中心に大衆的な文化が台頭した。

こうしたアメリカ合衆国の繁栄の契機となったのは、第一次世界大戦だった。第一次世界大戦では、**B** において戦車が初めて使用されるなど、新兵器の投入によって多数の死傷者を出した。ヨーロッパにとって空前の災禍となったこの戦争は、ヨーロッパ中心主義的な考え方、進歩史観、科学技術への盲目的な信頼を揺るがすものだった。さらに第二次世界大戦における核兵器の使用やファシズムの経験は、戦後の国際体制だけでなく、西洋近代の思想のあり方そのものに決定的な変更をうながすものだった。

第二次世界大戦後にインドシナ戦争と**C**を経験したフランスでは、1960年代から1970年代にかけて、西洋近代的な「真理」や「進歩」という概念に疑義を呈し、それらを批判的に思考するポスト=モダニズムの思想潮流が現れた。人間を取り巻く地球環境が世界規模で変動し始めた時代を生きるわれわれは、自身の内にある西洋近代的な価値観と歴史をもう一度見直し、新たな世界の動向を見極めていかねばならない。

設問X 文中の空欄**A**～**C**に入る最も適切な語を、a～dの中から一つ選びなさい。

- | | | | | |
|---|--------------|------------|-----------|-----------|
| A | a ショーペンハウアー | b ニーチェ | c ランケ | d ヴェーバー |
| B | a タンネンベルクの戦い | b ヴェルダンの戦い | c イープルの戦い | d ソンムの戦い |
| C | a アルジェリア戦争 | b ハイチ革命 | c モロッコ事件 | d タヒチ保護領化 |

設問Y 文中の下線部①～⑧に関する次の問いについて、最も適切な解答をa～dの中から一つ選びなさい。

- ① 「大衆」の出現にともなって、労働者政党の出現やプロレタリア文学の流行など、様々な分野でマルクス主義への関心が高まった。マルクス主義やそれ以後の社会主義に関わる以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a 1848年は、貧困層の増大など新たな産業社会における社会問題を背景にヨーロッパ規模で革命が起こった時代の転換点であり、『共産党宣言』もこの年に発表されている。
 - b 労働者と兵士はソヴィエトを組織してロシア十月革命（十一月革命）を推進し、国会はソヴィエトの支持を受けて臨時政府を発足させた。
 - c コミンテルン（共産主義インターナショナル／第3インターナショナル）の支援によって、陳独秀らが中国共産党を結成する一方、中国国民党を結成した孫文もソ連との提携を図った。
 - d ワレサ率いる自主管理労働組合「連帯」がポーランドで改革を推し進めた結果、共産党単独政権が崩壊し、ハンガリーやチェコスロヴァキアもこれに続いて複数政党制に移行した。
- ② 第一次世界大戦に関する出来事について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a イギリスは、フセイン（フサイン）・マクマホン協定（書簡）でアラブ人国家の独立を認める一方、バルフォア宣言でユダヤ人国家の設立を援助する姿勢を示し、戦争遂行のための助力を得ようとした。
 - b パリ講和会議で国際連盟の設立が決定され、ジュネーヴに本部が置かれた。
 - c キール軍港の蜂起に始まるドイツ革命を機に共和国の設立が宣言され、1918年11月11日に休戦協定が結ばれて第一次世界大戦は終結した。
 - d トリアノン条約がオーストリアと連合国の間の講和条約として結ばれた。

- ③ ファシズムに関する特徴や出来事について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a フランコは、イタリアとドイツの支援を得てスペイン内戦に勝利し、第二次世界大戦では枢軸国側に立って正式に参戦した。
 - b イタリアのファシスト党は政情不安の原因を共産主義や議会制民主主義に帰し、全体主義的な一党独裁体制を確立した。
 - c ヒトラー政権は、公共事業の提供や余暇組織の整備を行い国民の支持を集める一方、四カ年計画によって軍需産業を拡張し、徴兵制の再開と再軍備を宣言した。
 - d 日独伊三国防共協定（三国防共協定）は、国際共産主義運動に対抗するために結ばれたが、「持たざる国」としてヴェルサイユ体制およびワシントン体制に対抗する性格も併せ持っていた。
- ④ 非ヨーロッパ地域におけるこの時期の出来事について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a ベトナム戦争でのアメリカ軍基地の利用に対する批判から、沖縄の日本本土への復帰運動が高まった。
 - b 1960年は、アフリカで多くの独立国が成立し「アフリカの年」と呼ばれた。
 - c 南ベトナムはベトナム戦争ののちにサイゴンを占領し、ベトナム社会主義共和国を成立させた。
 - d 第四次中東戦争に際してアラブ石油輸出国機構（O A P E C）が行った石油戦略は、第一次石油危機を引き起こして世界的な不況を巻き起こした。
- ⑤ 近代に至る西洋の「真理」観について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a 古代ギリシアにおいて、ソクラテスは真理の絶対性を説き、弟子のプラトンもイデア論でこの立場を支持したが、プロタゴラスは普遍的・客観的な真理の存在を否定した。
 - b 中世スコラ学の普遍論争では、「普遍」をめぐる、アンセルムスは実在論の立場を取り、アベラールやオッカムは唯名論の立場を取った。
 - c デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」という言葉は、経験や観察を通じた帰納法によって、真理を探究するための基礎となった。
 - d カントは経験論と合理論を総合し、人間の認識能力の限界を定め、フィヒテ、ヘーゲルへと継承されていくドイツ観念論の基礎を築いた。
- ⑥ 西洋の社会や科学の進歩について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a 15世紀半ばにグーテンベルクが実用化した活版印刷術は、情報伝達のあり方に一大変化をもたらし、ルターの宗教改革など新しい思想の普及に貢献した。
 - b 18世紀のヨーロッパでは、社会や学問の進歩を讃えたルソーとともに、啓蒙思想家たちが文明の進歩を唱導し、フランス革命の原動力となった。
 - c フレミングの発見したペニシリンは抗生物質の製造を可能にし、20世紀の医療技術の進歩に貢献した。
 - d 相対性理論によって物理学を革新したアインシュタインは、第二次世界大戦後、哲学者ラッセルらとともに核兵器の危険を訴え、1957年のパグウォッシュ会議に道をひらいた。
- ⑦ 人間と地球環境との関係について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a 12世紀以降のヨーロッパでは、シトー（派）修道会などを先頭として、森林を切り開いて耕地とする開墾運動が盛んになった。
 - b 地球上では気候変動が度々起きており、例えばヨーロッパでは、中世の温暖期を経て、近世から19世紀にかけて、小氷期と呼ばれる寒冷期があった。
 - c レイチェル＝カーソンが著した『沈黙の春』は、農薬が生態系に与える影響に警鐘を鳴らし、自然環境の保護に意識を向けさせた。
 - d 1997年にアメリカ合衆国の主導により、温室効果ガス削減の目標数値を定めた京都議定書が採択された。

- ⑧ ここで言う「新たな世界の動向」について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。
- a 新自由主義とは、レーガンやサッチャーの掲げた「大きな政府」の考え方にに基づき、経済を国際市場の動きに委ねる、経済のグローバリゼーションを支える思想である。
 - b 2014年、旧ソ連の一部であったウクライナがEU加盟や西側諸国との関係強化への意向を示すと、19世紀半ばに戦争の舞台となったクリミアをロシアは併合した。
 - c 世界各地の紛争地域などで発生する難民に対して、ジュネーヴに本部を置く国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が国際的な保護や援助を与える機関となっている。
 - d 2001年のアメリカ合衆国での同時多発テロを受けて開始された「対テロ戦争」では、アフガニスタンのターリバーン政権が、続くイラク戦争では、フセイン政権が崩壊させられた。

[以下余白]